

メモリアル かわら版

2011年 Vol. 9

発行

びわこメモリアルホール

栗東市林295-2

0120-440-075

★ 葬儀事前相談をしてみて思ったこと… ★



以前の『かわら版』で【葬儀は事前に葬儀ホールを訪れて相談することが大切です】と書きましたところ、前に比べて相談する家族が増えてきました。相談者が自分自身の葬儀を心配して来られた時に、「どのような葬儀を希望されていますか？」と尋ねると「子供に負担にならない葬儀」「子供に費用を出してもらわねばならない」等、子供を心配する抽象的な返事をされて、その後「家族だけの葬儀を希望しています」と言われる方が多く見受けられました。

また逆に、相談者が親の葬儀の相談に来られた時は「〇人くらいの親族で家族葬を希望していますが、いくらぐらいかかりますか？なるべく費用はかけたくないのですが…」、「母は花が好きなのですがどんな祭壇があるか見せて欲しい」「葬儀を無事終えるコツと注意事項を教えて欲しい」等具体的な質問も多く、控え室の設備等もしっかり見て、見積書をとっていかれる方が多いように思いました。

自分の葬儀、親の葬儀問わず都会では、葬式や死者を軽く扱うようになってきているといわれる中で、このように事前相談にホールに来られるとなんとなく葬儀社として安心します。



以前、親の葬儀をした時に、積立金をしており追加費用もかからないと思っていたのに葬儀代金がかかり高くかかったので相談に来られた方がおられました。突然の事だったのであわてて積立金をしていた葬儀社に来てもらって訳もわからずおまかせしたら、精算時にビックリしたとのこと。テレビ等のマスコミで、「葬儀にお金をかける必要はない、葬儀社のいいなりになってはいけない！」等、真面目な葬儀社としては怒りたくなるような報道が多々流れていますが、相談しながら思ったことは、費用をかけたくないと言うのは何も格安葬儀を望んでいるのではなく、納得できないものに大金はかけないと思っている方がかなりおられると思いました。この方もこのように言っておられました。「してあげたいこと、必要な物には多少費用がかかってもかまわない、逆にそれは安いほうが怖いですと…。」

「お別れ会方式でしたい」「小さな家族葬がしたい」等それぞれの家族も葬儀に対しての考えや希望があることも再確認できました。果たしてその考えや希望を葬儀社がかなえてくれるのか…。ここが一番の問題点だと思います。また、相談をされていて嬉しいような？不思議なことが多い事に気付きました。ある程度相談を終えて、「いくつホールを見て回る予定ですか？」って聞くと「もうここに決めました」とか「後は見て回る予定はありません」との返事の多い事です。…100万前後の二度と無い大きな買い物です。必ず複数の葬儀社を見てから決めましょう。

「昔から〇〇社に積立しているから」とか「安い広告を見たから」等安易な考えで葬儀社を決めていませんか？言語道断ですよ！

私は、お勧めします。自分の考えや希望をかなえたいなら少なくとも事前に実際に葬儀をする担当者と顔を合わせましょう。親しくなりましょう。必ず、いざという時の安心が得られますので…。

★ 葬儀と花の関係 ★

いまでは当たり前のように、亡き人に花を供えたり、手向（たむ）けたりします。花といえば昔はお供えの花だけでしたが、いまでは祭壇自体を花で作る花祭壇はもちろんのこと、写真（遺影）回りをアレンジ花で飾ったり、棺回り花、焼香花、看板装飾花などいろんなところで、たくさんの種類の花が登場しています。いつからこのようなことが始まったのか考えてみました。

① 亡き人に花を手向けたのはいつから？ 発端は原始人？



『日本書紀』の一話にイザナミノミコトが火の神を産んださいに、その火に焼かれて死んでしまう話があります。死後イザナミは葬られ、そこに住む人々はイザナミの魂を祀るために花が咲く季節には花を捧げ、笛や太鼓の音とともに踊ったそうです。

また古代エジプトでは（NHKの番組から）ツタンカーメン王は、墓の黄金の輝きよりも妻が手向けた矢車草が一番美しいとありました。それより以前にはこんな記事も発見しました！四万年以上前のネアンデルタール人の共同墓地跡から花粉が発見されたと…やはり古今問わず人が亡き人に花を供え、手向けるという行為は“人が人を思う”…人としてごくごく自然な行いだっただのかもしれない。

② 花でお別れすることにどんな意味があるの？



お別れの時、柩に故人の愛用品や故人への手紙など残された人が故人を偲び副葬品を入れられます。長い間葬儀の仕事をしてきて、今まで1,000人程のお別れの場面に立ち合わせていただきましたが花を入れなかった遺族は無かったです。昔、祖父の葬儀の時に母親はこう言いました。“お花は、お水の代わりになるからたくさん入れてあげて”と、子供ながらにあの世には水がないと思ひ込みたくさんの花を入れたように思います（笑）。

花の持つ強靱な生命力が、生命の象徴とされたのだろうというのが手向ける一般説のようです。花を手向けることで新しい生命や再生を願っているのかもしれない。それぞれ人により亡き人との関係も違いますし、それぞれが亡き人を偲び、感謝し、想いを花に託せば素晴らしく、意味のある“別れ花”になるのではないのでしょうか…。

③ 花祭壇の良いところ



最近では、昔からの白木の祭壇よりも花祭壇を希望される家族が増えてきました。白木祭壇は、白木のぬくもりと荘厳さを感じさせたもので昭和から平成はじめにかけては祭壇の主役でした。今でも、もちろん白木祭壇を選ばれるかたもおられますが、花祭壇と違うところはその故人限定の祭壇ではないということです。（何人もの故人が同じ祭壇を使用する）

一方、花祭壇は、その祭壇はその故人だけのものであり他人が使うことができないことが（使い回しができない）流行したひとつの理由だと思います。花職人（フラワーデザイナー）が、白菊を組み合わせ段タイコや波型のライン取り、それに洋花をアレンジして祭壇をすべて手作りして仕上げていきます。仕上がるまで2間間口の祭壇で2時間から3時間くらいかかります。

④ ありえない、信じられない話…

花の美しさ、そして匂いは悲しみの中にいる遺族をほんの少しでも癒したり、和ませたりするようにいつも感じております。男性に花の値段や値打ちをいってもあまりわからないと思います。が菊1本で350円、デンファレで500円、胡蝶蘭だと1500円くらいします。花祭壇でも大きな祭壇からこじんまりしたものまでいろいろありますがかなりの花の量と種類を使います。

故人のことを思い注文した花祭壇やお供えの花…もちろん最後のお別れにはその花を使うのが当たり前です。それも、花祭壇の良いところです。しかし、いざお別れとなると祭壇の花やお供えの花をとらずに別のところからお別れ用の花を持ってくる葬儀社があるそうです…。もしそんなことに遭遇したなら怒りを葬儀社にぶつけて文句を言って下さい。自分達が供えた花でお別れできないのはおかしい話です。同業者として恥ずかしい話で信じがたいです。本来使い回しのできない花を使い回ししていると思わざるをえません。

※ メモリアルホールでは、遺族の目の前で花を取るのももちろんのこと、柩に入りきらず残った花は中陰祭壇飾りのお花や花束にして家族に持ち帰ってもらうようにしております。



“故人の好きだった花で送ってあげたい、…よく聞く言葉です。故人の好きな曲で送ってあげたい、…これもよく耳にします。どちらも始めに「故人の…」って言葉から始まります。葬儀ではあくまで故人（遺族も含めて）が主役なのです。フラワーデザイナーさんには申し訳ないですがどんなに高価な花も綺麗な花も葬儀の場では脇役でしかないかもしれません…。主役（故人）を支えるのが脇役（花・音楽）だと思います。特に花は生き物であり美しいだけでなく、目には見えない多くの役割を担っていると思います。遺族の心を支えたり、心に安らぎを与えたりしているのも花だと思います。何故、葬儀に花を飾り、供えるのか？少しでも悲しみでいっぱいの人“心の支え”になるからだといつも思っております。

◇メモリアルホール 夕風クラブ会員 随時受付中 まずはお電話を！◇

① 夕風クラブへの入会する方法

- ① 入会金として10,000円が必要です（以後積立金・掛け金の必要は一切ありません）
- ② 一度入会すれば永久会員です（互助会のように再度入会、掛け金をする必要はありません）
- ③ まずは来館もしくは電話ください（077-552-4400まで）。

（決して入会の強制は致しません。雑談するような気持ちで来て下さいませ…）

② 夕風クラブへ入会したメリット

- ① ホール使用料50%OFF、祭壇セット料10%OFFになります。
- ② その他関連店舗で優遇があります。

ご葬儀費用のご準備は、安心できる生命保険で。

葬儀にはお金がかかります。祭壇や会館使用料等の葬儀費用一式、飲食接待費用、宗教者への謝礼といった葬儀費用がかかるほか、入院・通院費の清算や、法要、遺産相続に必要な手続き、家財の処分や清掃等、又お仏壇やお墓・墓地を持っていない家では、それらを購入する費用なども必要になってきます。

ご葬儀費用を目的とした保険の選び方

1. 死亡時の保障が必要だという場合

この場合は、「定期保険」や「終身保険」に加入します。
定期保険は一定期間の保障であるため一定年齢を過ぎると保障が終了してしましますが、その代わりに保険料は割安です。一方、終身保険は一生涯保障が続きますが、貯蓄性のある保険のため保険料負担は定期保険に比べて重くなります。



2. 入院した時の入院費などの保障が必要だという場合

この場合は「医療保険」に加入します。
最近の医療保険は、「終身保障」「掛け捨て型」「1回の入院限度が60日（その合計日数で1,000日程度まで。通算〇〇日という言い方がされています）」が主流です。



3. 死亡時も入院した時も保障が必要だという場合

死亡保障の「終身保険」と「定期保険」、それに入院保障の「医療保険（終身型または定期型）」を組み合わせて加入する、という方法があります。

三大疾病（がん・心筋梗塞・脳卒中）で、入院した場合（または一定症状になった場合）に、給付金を定額で支払うタイプのものもあります。

大切なことは、あなたのご家庭状況・生計にあわせて、設計することです。

全てにおいて完璧な保険はありません。

大切なことは、どこのどんな保険に入るかよりも、あなたのご家庭状況を鑑みて、安心して相談できる「保険の専門家」と一緒に将来設計を考えることです。

編集後記

大手葬儀社のような派手な広告はなかなか消費者には伝わりにくいと思い『かわら版』を配らせていただき第9号になりました。今後も参考に読んでいただければ嬉しいかぎりです。

『かわら版』は不特定・不定期に配らせていただいております。葬儀の話題ばかりで、気を悪くされたらお許し下さい。

合 掌